



# 学校だより

平成29年度2月号  
平成30年2月1日  
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

## 「2月」

～文武両道の大谷ロブランドをつくろう！～

校長 汐満 猛

平成29年度も3月を残して、いよいよ大詰めに差し掛かりました。まとめの三学期として、学校評価についても3月号に別紙でご報告させていただきます。まずは、アンケートのご協力について、保護者の皆様、生徒の皆さんに心から感謝を申し上げます。

今年度の大きな変化は、学力も体力も昨年度と比較して格段に向上していることです。学校評議会及び評価委員会でも一つの成果として大きく取り上げていただきました。これは、指導に当たった教職員の指導力と生徒のみなさんの頑張りにつきます。ただ、中学生の様々な悩みに対する対応には、多くの課題があります。今後も、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

さて、冒頭でも述べたように1年のまとめとなる3月を目前にして、教職員並びに生徒、保護者の皆様の感想はどんなものでしょう。私がこの2年間取り組んできたことは、今までの経験の全てをこの学校に活かすということでした。教職員に対しては、学年や部活動など適材を適所に配置して、自分の得意分野を確立してやりがいをもって仕事ができるようにしました。生徒の皆さんには、自分の価値を認識し、自尊心の確立を目指して「ブランド」という言葉を提示しました。自分自身を大切に唯一無二の価値あるブランドを創る。その集団が「文武両道の大谷ロブランド」となるということ。保護者の皆様には、PTA役員の皆さんを中心に学校に来るのが楽しみになるような学校づくりを意識しました。そうした中、保護者会でのあいさつでも一貫してこだわり続けてきたテーマは、進路・キャリア教育でした。子どもが働くことを念頭に進路を考えてほしいのです。高校や大学の卒業資格も大切ですが、それ以上に多種多様な資格を持つことの大切さを繰り返し話してきました。

65歳定年制が迫る時代に、働くということを考えるということは大切なことです。2020年の東京オリンピック開催前とそれ以降の社会的変化は、日本経済だけでなく世界経済においても大きな変化があります。大学入学テストもその一つです。変化といえば思い出すのは、ダーウィンの言葉とされている「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ。」という言葉です。実際にダーウィンがそう言ったとする証拠はありません。しかし、内容には納得できるものがあります。

卒業も進級も大きな変化です。そして、新しい学校や新しいクラス、その変化への対応を考える前に、今の自分をしっかりと見つめ直して現状を理解することが大事です。まわりは自分に合わせてはくれません。自分が適応していくのです。時には、我慢も必要でしょう。それでも問題解決ができないときは、迷わず先生たちを頼ってください。全教職員が両手を広げて待っています。

保護者の皆様、3月を前に皆様の心中は悲喜こもごもだと思います。3年生は、確実に3年間の結果が出ます。現実と事実を直視していく勇氣と強さを持ってください。1・2年生は、進路はまだ先のことはありません。繰り返しますが、今から親子で進路に向けた会話をしておいてください。進路学習は、先ず保護者からです。2月は、お別れの3月に向けて準備する月です。日々を大切にしてください。地域の皆様にも重ねて、子どもの見守り等よろしく願いいたします。

